

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成23年 5月 第1回部会審議)

(平成23年 7月 第2回部会審議)

(平成23年10月 第3回部会審議)

(平成24年 5月 第4回部会審議)

(平成24年10月 第5回部会審議)

(産 業 部 会)

山梨県総合計画審議会

基本目標 1 「元気産業創出」 チャレンジ

○第3回部会 ●第4回部会 □第5回部会 (※行動計画策定以前の第1回及び第2回部会は省略)

政 策	発 言 要 旨	備 考
1 成長分野への参入と新産業の集積	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食品や医療が多いということで、うまく農業分野と絡めて政策にするのが良い。全体を見据えた上での産業政策が必要である。 ○ このところの円高は問題が出ている。これは計画に記載されていないが、どう展開するかは気がかりである。今後、情報を取りながら対処することかと思うが、放っておくと、日本の有数の産業がどんどん外に出て行ってしまう可能性が高い。情報を取って、施策に取り入れていく努力をしてもらいたい。 ● 世間は電気自動車化に相当早いスピードで動いていることもあり、これからどうしていくのかということについて、もっと具体的に成果を求めるような形で取り組んでいくべきではないか。 ● 県外から県内に来ている企業を出来るだけ訪問し、要望に応えるようにすれば、県からの撤退は少なくなるのではないかと思う。 ● 宮城県では東京に企業誘致の専門が3人いると聞いている。山梨県でも同様のことをしているが、力を入れているということ各企業に周知するには、人員を確保し、企業をしっかり訪問していただきたいと思う。 	
2 成長分野を支えるプラットフォームの充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の宝石業界を活性化するためには、若者の気持ちを改革することが必要だと思う。宝石美術専門学校においても、民間の元気のある社長を講師とする等、今の授業にプラスアルファした取り組みが必要だと思う。 	
3 やまなしブランドの確立	<ul style="list-style-type: none"> ● ワインの海外輸出に関して、放射能の検査証を出さなければ輸出できない状況が続いているので、検査証がなくても輸出できるような体制を作っていただきたい。 ● ジュエリーの歴史を掘り下げ、フリーペーパーで取り上げ、観光客が訪れそうな観光案内所や道の駅で配布する等イメージ戦略が必要である。これに連動して、ジュエリーツーリズムを行えば、観光にも繋がっていくと思う。 □ 東京で行われたイベントで地場産業の物販だけでなく、観光と連動した情報発信を行い、山梨県に集客できるような取り組みをしたら非常に上手くいった。このような取り組みを継続して行っていけば良い施策になると思う。 □ いろいろな団体が都内で単独でイベントを行っているが、波及効果に乏しいので、県でまとめてコーディネートしていくと効率が上がると思う。 □ ジュエリーのポータルサイトがないので、境界を取り払い、問屋、メーカー、職人を交えたジュエリーのポータルサイトがあった方が良く思う。 	
4 地域経済の活性化と雇用の安定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特に機械電子工業関係は、非常にユニークな独自の技術を持っている中小企業が多いにもかかわらず、山梨県の産業としてブランド化されていない。山梨全体として県外、海外へアピールできるようなブランドづくりをしてもらいたい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
5 未来の農業を担う担い手の確保と高収益農業の実現	<p>○ 心配しているのはTPPの問題である。特に農業分野では非常に心配している。日本の農業、特に山梨の果樹はどうなっていくのかという懸念がある。政府は参加する意向のようで、参加となると全ての産業に影響が出てくる。そうなると、計画を大きく変えなければならないかと思う。</p> <p>● ぶどうを作るだけでなく、ぶどうをどのような形で消費者まで届けるのかということが大切であり、出口までも含めた支援としていただきたい。</p>	
6 中心市街地の活性化と商業の振興	<p>□ 中心市街地が活性化しないのは来にくいということが関係あると思う。難しいと思うが、ハード面で中心市街地活性化を考えていった方が良く思う。</p>	

基本目標3 「ウェルカム、おもてなし」チャレンジ

○第3回部会 ●第4回部会 □第5回部会 (※行動計画策定以前の第1回及び第2回部会は省略)

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 地域のおもてなしの向上と地域資源を活かした観光の振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 食について各宿泊施設が共通してできることがあれば良いと思う。例えば長野県では、ブランド豚を開発した際に、どこの旅館に行ってもブランド豚を食べられるキャンペーンを行った。本県でも類似の取り組みを行っていただければと思う。 ● 県民がその地域で楽しんでいる雰囲気を観光客も楽しむということが観光ではないかと思う。そのため、県内に自然にワインを楽しめるレストランが増えることが望ましいことであり、県民も一緒に楽しめる環境を整えることが大切である。 ● 観光客から駅を降りてワインと食事を楽しむところがないと指摘された。あったとしても案内が全くされていない。観光客を迎える駅前で、観光としてのおもてなしがまだまだ不十分ではないか。他の観光地におけるガイドツアーを見習い、将来的には駅を降りたところでガイドツアーに申し込めるようなガイドの養成に取り組んでいただきたい。 ● 観光と農業に関して、富士山を訪れた後に訪れる観光地として、峡東や南アルプス等の果樹地帯が考えられる。もう少し、観光部、農政部が連携して観光客にお金を落としてもらうような施策を考えていただきたい。 □ リニアモーターカーも十数年後には開通し、羽田からインバウンドで海外の方がかなり訪れると思うので、この十数年のうちに、山梨県を魅力的な観光地に押し上げていただきたい。 □ 観光客の意識調査結果を取っていただくと、山梨県の観光でどのようなことを行っていけば良いのかが見えてくると思う。ぜひ、このような調査をしていただきたい。 □ おもてなしに関して、観光業者だけでなく県民全員がおもてなしの意識を持てば、観光客の感じ方も今とだいぶ違うと思う。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>2 やまなしの魅力発信と多様な交流の推進</p>	<p>○ 何で山梨に来るのか、何のために山梨に来るのかを上手く伝える施策があれば良いと思う。各エリアのイベントなどを活用し、観光客を県内で動かすという取り組みが必要ではないか。</p> <p>● 本県の海外交流の歴史を顧みると最初は双方の交流が活発なのだが、途中から周年行事のような時にしか交流がないように感じている。特に中国、台湾、韓国などにはもっと日常的な交流活動を行えるようなことが大切である。</p> <p>● 観光に関して、例えば甲府を国際都市とするための取り組みを行うなど、大きな枠組みでの取り組みが必要である。</p> <p>● 個人の外国人観光客について、例えば寒い時に薄着で河口湖畔を歩いているのを見かけることもあり、情報が正確に伝わっていない可能性があるため、観光ネットの中で正確な情報を発信することはできないか。</p> <p>● 富士五湖を訪れた外国人観光客に甲府、勝沼も訪れていただくため、富士五湖から甲府、勝沼までの具体的なアクセス方法も紹介していただきたい。</p> <p>● 観光立県として、今後とも外国人観光客を取り込むためには、県としての多分野にわたる国際化に向けた取り組みが肝要だと思う。</p> <p>● 山梨には、国際化の必須条件ともいえる多言語学習の機関が存在せず、語学研修の機会が少ないと感じている。語学研修の機関として、新県立図書館の完成に伴う旧県立図書館をインターナショナル・スクールとして再生していただきたい。それに伴い、大学機関等からの賛同もいただければ、ハード・ソフト両面が一挙に揃うことになり、新たな枠組みで、山梨県の国際化に向けた取り組みが可能になると思う。</p> <p>□ 「姉妹友好交流の促進」について、多くの派遣を行っているが、受け入れにも、もう少し力をいれていただければ、もっと盛んに交流できると思う。</p> <p>□ 「多文化共生社会の形成」について、留学生の活用が大切なことだと思う。それに関連するが、静岡県では産学官連携して留学生のネットワークを作っている。留学前から留学後まで留学生の支援を行っている。国の新成長戦略の1つのテーマとなっており、それに基づき静岡県でも事業を進めている。本県でも参考してほしい。</p> <p>□ 多文化共生に関連して、国際交流協会がある市町村は留学生を活用しているが、国際交流協会がない市町村もある。このような市町村に対してどのように対応するかということも課題だと思う。</p> <p>□ 観光を進めるうえで、農家民宿等あるが、規制が厳しくて難しいところがあるので、山梨に合った観光ができるよう、観光特区みたいなものを作っていただきたい。</p> <p>□ 山梨県で外国の方を招いた多文化共生フォーラムという国際会議を開催するなど、新しい視点を持って良いのではないかと。こういったことを観光に結びつけていくという新しい動きが必要になってきていると思う。</p> <p>□ 中国の観光客について、家族旅行が増えているので、これを増やすような政策を行っていくことがポイントになると思う。これに関連し、観光客に良い印象を持って帰ってもらうことが大切であると思う。</p> <p>□ 在日外国人の人口ピラミッドから分かることとして、ブラジル人の若い人の数が非常に多い。子どもたちの数も非常に多い。この子どもたちが小学校、中学校、高校に入っていくという状況の中で、例えば、成長して就職できなければ生活保護をするのか。この負の部分に前もって手当をしていくことが大切だと思う。</p> <p>□ 山梨県の大学を卒業する留学生は毎年200人くらいいる。この留学生が地元に戻ってから山梨県のことを口コミで話してくれると思うので、卒業するまでに山梨県の良いところを知って帰ってもらうような取り組みができれば良いのではないかと。</p>	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>○ 他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<p>○ 30年後に「暮らしやすさ日本一の県」になっているかどうか。このあたりは民間にはできない部分で、行政にがんばってもらいたい。</p> <p>○ 人口を増やすには、観光客を定住人口にしていかなければならない。</p> <p>● 山梨県には遊休農地が多くあるので、太陽光発電のため、遊休農地を積極的に活用したらどうか。また本県は山も盆地も風が吹いているので、風力の活用も考えてはどうか。</p> <p>● 人がいなくなることは仕方のない面もあるが、それを補う施策をどのように展開していくか積極的に取り組んでいくことが大切である。</p> <p>● 関係部局の職員によるプロジェクトチームの編成は、私たちが望んでいる方向性になっていると思う。私は多文化共生の分野で活動しているが、いろいろな問題に対して、既存の枠組みで対応することが困難となってきている。新しい体制、横断的に対処していくことが大切となってきている。</p> <p>● 例えば、インドの方は山梨にインターナショナルスクールがなく、英語をきちんと勉強するところがないと感じ、東京で勉強しているという実態がある。このように、どうして定住人口が減るのかということを見極め、プロジェクトチームで対処していただきたい。</p> <p>● 外国人の家庭の子ども数に着目してもらおうと、日本の人口ピラミッドと異なり、子ども数が多いのだが、今後うまく活用していけば、社会保険の支え手となっていくと思う。ここにもぜひ目を向けていただき、長期的な展望の中で取り組みを行っていただきたい。</p> <p>● 本県のような問題に対して、他県で同じような問題に対してうまく対処しているところをベンチマークするようであれば、それをモデルとして本県を変えていけば良いと思う。</p> <p>● 一番の問題は地方都市の人口減少だと思う。人口減少は自然減と社会減があるわけだが、自然減に歯止めをかけることは難しいと思うので、社会減に歯止めをかけることが大切である。</p> <p>□ 自然とやすらぎを求めるのなら、生きるために選ばれた山梨県というキャッチフレーズを考えるのもおもしろいと思う。</p> <p>□ 既存の生活道路を整備してほしいという答えがあったが、力を入れていただきたい。</p> <p>□ ワイン、ジュエリー、織物は文化的産業であるので、県民の文化意識の高さを今後上げていかなければ、このような産業も活性化されないと思う。県民の意識向上を図るため教育をしていくことが重要だと思う。山梨県は史跡も多いので、小学生が歴史文化を普通に語れるような地域になっていけば、自然にいろいろな面での文化レベルが上がっていくと思う。文化レベルが上がらないと産業レベルも上がっていかないと思うので、教育の場を設けていただきたい。</p> <p>□ 行政を推進するうえでの見える化が必要である。行政の施策を行う時に、どんなところにどんなものがある、どんなことを県で活用していけるのかということの見える化が必要であると思う。</p> <p>□ 1つの事業を行った結果どうなったかという達成度をもう少し分かるようにしていただければと思う。</p>	<p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>基盤部会へ</p> <p>教育文化部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p>

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成23年 5月 第1回部会審議)

(平成23年 7月 第2回部会審議)

(平成23年10月 第3回部会審議)

(平成24年 5月 第4回部会審議)

(平成24年10月 第5回部会審議)

(環 境 部 会)

山梨県総合計画審議会

基本目標 2 「環境先進地域」 チャレンジ

○第3回部会 ●第4回部会 □第5回部会 (※行動計画策定以前の第1回及び第2回部会は省略)

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 自然力を活かしたクリーンエネルギーの導入促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペレットストーブは使い勝手も良くとても優れた器具だと感じている。森林のためにも良い取り組みだと思うので、県の施設だけではなく、民間の普及も視野に入れ、息長く進めてもらいたい。 ○ 峡南衛生組合では、学校給食や病院の残渣をペレットにして、私たちがそれを使っている。とても良いことであり、県でも推進してもらいたい。 ○ 今後目指すところとして、水力、太陽光等を合わせて山梨県内の電力供給量の100%を県内の発電でまかなうことを掲げてもらいたい。いつ何時、地震や災害が起こるか分からず、県内分だけでも確保するための供給量の増強が必要ではないか。 ○ 県民のエネルギーに対する需要意識が高くなってきているので、ぜひ県で持っている水力発電所にもう少し手を入れて、供給量を増強させることを新しいチャレンジとして取り組んでもらいたい。 ● 電力不足への対策として、規模が大きい企業局の水力発電設備の改修、リニューアルなど、発電量増量に向け計画的に取り組むを進めるべきであると考えている。 ● 電力の全量買取制度の開始を受けて、県内の民間事業者が小水力や太陽光などの発電に取り組めるような支援や仕組みづくりが必要である。 ● 貴重な山梨県のエネルギー資源については、地元での活用を前提に取り組むを進めてもらいたい。 ● 本県は小水力を徹底的に進めるとともに、再生可能エネルギーに積極的に取り組んでいることをPRし、助成金を出すだけでなく、助成金を受けずにやっている企業などにも取り組みを伝え、活性化させていく必要がある。 ● 水資源である地下水、湧水の恒常温度(10~15℃)を利用した、施設園芸・植物工場等による省エネルギー化を促進してはどうか。 ● 民間のメガソーラー発電所の誘致では、県内の企業による発電所経営に対し支援を行うなど、エネルギーの地産地消に向けた取り組みとする必要がある。 ● 小水力発電の推進には、県内の昭和30年代に廃止された小規模発電所の再興や、県内電力会社等の設立支援、農業用水路による土地改良区等の取り組みへの支援が必要ではないか。 ● 県外企業への地域エネルギーの流出防止措置や、携帯電話、PC充電用など手づくりの小規模太陽光パネル生産、地域ビジネスへの支援、ペレット・薪等のストーブ・ボイラーの導入促進など木質バイオマスの推進、太陽熱利用の推進などが必要ではないか。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 自然力を活かしたクリーンエネルギーの導入促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ エネルギー局では、本県固有の地域のエネルギーである木質バイオマスなど熱エネルギーや、温暖化対策も含めて、新しいエネルギー対策に取り組んでいてもらいたい。 □ 太陽光パネルは大規模なものが出てきているが、山などに大量に整備されると景観上どうなるのかという不安がある。 □ 太陽光発電設備の個人宅への設置については、増加傾向にあり良い方向で進んでいるが、水力発電設備については、個人での導入は難しい。 □ 環境価値の買い取り又はポイント制度と評価・還元制度の制定、環境・エネルギー対策の人材育成、地域資源の保全と適切な活用方法の確立、地域の協議会・環境団体等の参画と意思の反映が必要である。 	
<p>2 地球にやさしい省エネライフの推進と循環型社会の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国や財団法人、県などの環境に関する情報がプラットフォーム化されておらず、紙媒体など情報発信のツールが多岐にわたっている。これを一元化することで紙媒体等の軽減により環境に貢献できると思う。 ○ 桂川流域の森林整備などの取り組みにおいて、神奈川県との相互連携を推進してもらいたい。 ○ ゴミ減量やリサイクルの推進などで、意識啓発は目に見えない、確かめるのは非常に難しい分野であるが、一方的に啓発グッズを配布して終わりではなく、住民からのフィードバックを得るための取り組みも必要である。 ● やまなし節電県民運動の推進は、県温暖化防止推進員や各市町村毎に設立されている温暖化対策協議会、県内NPOの活用と協働連携が必要ではないか。 □ CO2フットプリントモデルや排出権取引などの取り組みによる、再生可能エネルギー・熱エネルギー・省エネルギーの環境価値循環のシステム構築が必要ではないか。 □ 地産地消の生産物・エネルギー供給・省エネ対策について、地域の事業者にも意思決定の場へ参加してもらうことが必要ではないか。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>3 活力ある林業の振興と豊かな森林の保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 林道、作業道については、整備に対しては補助金等の支援を受けられるが、メンテナンスについて支援がなく、維持管理の面で不安がある。 ○ 間伐材の今後のはけ口が心配であり、県森連市場などの強化も含め、間伐材に特化した市場が必要ではないか。 ○ 本県では間伐材を県外の合板工場に搬出することがほとんどだと思うが、他県を見ると間伐材を加工する工場が県内にあるのが普通であり、県内における間伐材の加工を促進する必要がある。 ○ 県産材の住宅建築への利用促進について、住宅戸数を拡大するなど、より積極的に取り組むことが必要である。 ○ 森林環境税の導入を受け、民有林など森林の整備について、着実に進めてもらいたい。 ● 自然環境を保全していくため、基本となるのが森林組合による森林整備であり、県の方でも森林組合としっかりと連携しながら取り組みを進めてもらいたい。 ● 水源を守って行くには、水源林をしっかりと管理していく必要がある。戦後、スギ、ヒノキだけであった植林を、混交林化していく取り組みが必要ではないか。 □ 森林環境税を徴収し、林道整備や森林整備、耕作放棄地の再生などしっかり取り組んでいるが、森林に関する国の予算が少な過ぎる現状、なかなか面的な整備が進まない状況にあり、県の方にも頑張ってもらいたい。 □ 民有林の所有者それぞれの面積は小さく、整備するのに困っているが、森林組合連合会がそれぞれの人を集めて、地域としてまとめるための作業も難しい。県の方でも森林組合の集約化作業を応援してもらいたい。 □ 県産材の消費拡大のためには、隣接県との連携にも取り組む必要があるのではないか。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>4 自然と調和した美しい農山村づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鳥獣害被害に関連して、若い人で罟猟の免許を取りたいという人が私の周りでも増えてきているが、捕獲した野生動物の処理の仕方について、具体的に周知していく必要があるのではないか。 ○ 有機農業導入の推進について、県が様々な取り組みをしていることを、各市町村を通じて末端の農家にまでPRすることが必要ではないか。 ● 鳥獣害防止対策の推進のため、鳥獣害の駆除への支援とともに、駆除した後のジビエの活用への支援を行う必要がある。 ● 鳥獣害対策は、防除網の設置などにより被害は減少しているとのことであるが、引き続き県の支援をお願いしたい。 ● 有機農業については、環境保全型農業を前面に出した上で、経営と環境とを両立するような農政を心がけながら推進すべきではないか。 ● 環境保全型農業の推進やブランド化、ジビエ等の活用では、県内消費だけでなく、県外首都圏や他県に流通させていくこと、さらに、県外に向けて、本県ならではの魅力をメディアミックスの力を借りてPRしていく必要がある。 □ 有機栽培に取り組む中、イノシシの被害を受けている。生産者は畑をネットで覆うような努力をし、県でも電気柵を設置してくれてはいるが、サルは柵の間を通過してしまうと聞いている。大変だとは思いますが、対策をお願いしたい。 □ ジビエ料理の人気の高まっており、鹿肉を利用したいというレストランが多い中、県内には利用できる状態の鹿肉が少なく、北海道から鹿肉を仕入れているとよく聞く。鹿肉が利用できる取り組みが必要ではないか。 □ 獣害防止のための電気柵の設置などの取り組みについて、市町村や地域など実施主体と連携しながら、継続的に進めてもらいたい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
5 快適で美しい環境の保全	<p>○ 本県は山林に囲まれているので、森林や農業など美しい環境に触れる機会を子供達に提供してもらいたい。</p> <p>● 水資源の保護と適正利用の推進のため、地下水の保護とともに、河川などの水質向上についても、取り組みを進める必要がある。</p> <p>● 美しい県土づくりの推進のためには、具体的な取り組み内容を示すなど、PRの仕方を工夫する必要がある。</p> <p>● 本県は、全国の中でも水資源が豊富だと聞いており、豊富であるがゆえに、余計、水質検査など、水資源の保護に積極的に取り組んで行ってほしい。</p> <p>● 世界遺産センターの設置については、今までの組織の再編や、合理的な組織形態とすることなど、基本計画づくりの中で検討する必要がある。</p> <p>● 世界文化遺産登録では、自然は良いが、人工物をどう扱うのか、資産となる施設だけでなく景観も含めて周辺と今後どう取り組んでいくのが課題であり、ぜひ力を入れてもらいたい。</p> <p>● 美しい県土づくりのため、屋外広告物を重点的にやることは良いが、看板類の規制、取り締まりが思うように進んでいないため、国の法律システムの中でどこまでできるのか、成功している他県などを参考に取り組みを進める必要がある。</p> <p>● 世界文化遺産登録の推進では、本県は多くの構成資産を有するため、県を挙げて、経済人、関係団体を挙げて、一致団結して力強く取り組んでいく必要がある。</p> <p>● 森林保全の取り組みにおいては、自然環境や景観なども十分考慮することが重要である。</p> <p>● 富士五湖をはじめ忍野八海など富士山にまつわる資源が豊富でありながら、富士山ドームや道の駅、忍野八海などを周遊するとき、週末や連休に交通渋滞が発生する。首都圏から近く、公共交通と車両の両方が必要な場所が多いので、交通環境の整備も重要である。</p> <p>□ 世界文化遺産登録については、県の施策推進により、これまでの難題である景観や廃墟の問題などが解決できている。</p>	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>○ 他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<p>○ 放射能に対する不安がある中で、個々の農家が、農産物の安全性を独自に調査するのは大変であり、県やJAが積極的に対応するべきではないか。</p> <p>○ 都内のシェフに山梨県の食材を活用したメニュー開発を依頼する中で、食材の運搬がとても大事であるという意見が多く、重要性を認識している。</p> <p>● 農地集積の促進のため、各市町村に農地利用円滑化団体の設置を進めているが、農業委員を農地集積推進員に活用するような検討も行う必要がある。</p> <p>● 雇用創出や求職者対策、若者の離職率の抑制を図るためにも、メンタルヘルスやハラスメントの問題などを相談できる窓口の設置や、その周知を行う必要がある。</p> <p>● 食品の放射性物質汚染が取り上げられ、学校給食では放射性物質検査も始められているが、スーパーなどの産地表示では、どこまで信用して良いのか、食品の安全がどこまで守られているのか分からないところがある。</p> <p>● 農業の6次産業化の推進では、移動距離を少なくするフードマイレージ対策のための地産地消推進や、農家・農業技術者の指導による家庭菜園での自家生産・自家消費の促進が必要ではないか。</p> <p>● 経済活性化には、県がトータル的にフォローし、法整備やサービス提供を進め、自然環境だけでなく交通環境や農業環境、文化推進環境などにおいて、住民と一体となり、住民も意識的に“環境を維持しながら生活をする”中で、他県と異なるオンライン化を目指すことが必要である。</p> <p>● 農業・畜産環境などでは、高齢の農業従事者や新規参入者など、必要な人・組織にタイミング良く支援制度を活用してもらえるよう、ヒアリングや調査を実施したり、丁寧な情報発信を行う必要があるのではないか。</p> <p>□ 県民意識調査結果を今後活用していくには。前回との比較で満足度の低下している点など、原因究明をしていく必要があるのではないか。</p> <p>□ 県民意識調査結果で、「どちらともいえない」というのは、満足しているということではないか。それで良いとすれば、調査結果は大変良くなり、その点、出し方の難しさもある。</p>	<p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p>

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成23年 5月 第1回部会審議)

(平成23年 7月 第2回部会審議)

(平成23年10月 第3回部会審議)

(平成24年 5月 第4回部会審議)

(平成24年10月 第5回部会審議)

(基 盤 部 会)

山梨県総合計画審議会

基本目標 4 「交いの国」 チャレンジ

○第3回部会 ●第4回部会 □第5回部会 (※行動計画策定以前の第1回及び第2回部会は省略)

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 地域をむすぶ幹線道路網の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子・高齢化が進み、ハードを利用する人とならない人の二極化が進んでいるので、ソフトの施策の推進も必要である。 ○ 他県に比べて遅れている道路整備を進めることにより、企業が増えて人口が増え、地域の活力が向上し、地場産業においても多角化が進み、波及効果が期待できるのではないか。 ○ 道路などの基盤が整備される10年、15年後の県民の年齢構成を考慮し、あらゆる年齢層の人たちが安心して暮らしていけるまちづくりを行う必要がある。 ○ 「人にやさしい」という言葉が何箇所も出てくるが、具体的にどのようなことをしていくのかが分かりにくい。 ○ 山梨は車がないと大変暮らしにくいので、道路を整備することにより渋滞が解消されて移動時間が短縮されると、生活が豊かになる。 ○ 「人にやさしい」といっても、人によってやさしさの感じ方が違うので、それを明確にするためにも明確な指標が必要である。 ● 交通網が発達すれば山梨が発展するという発想のようだが、グリーン・イノベーションを新しいものに結びつけていくなどして、そこに暮らす人たちが幸せを感じられるようにすることが大切であり、発想の転換が必要である。 □ これ以上の高速交通網を自然を破壊してまでつくるのはどうかと思う。もはや、経済発展と自然保護は二者択一の問題ではなく、環境については待ったなしの問題であり、それへの配慮がないと生活が成り立たないと思う。 □ 子育て中の母親からみて身近なものである、通学路の安全は非常に重要である。 	
<p>2 公共交通の利便性向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢化率が上昇しており、交通弱者といわれる人たちが、公共交通機関やその情報を利用しやすくしていくことを考えていく必要がある。 ○ 公共交通機関には、高齢者の健康増進、観光、地域の活性化などのいろいろな効果があることが実証されているため、他の施策との組み合わせにより公共交通機関の利便性向上を進めていく必要がある。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> ○ リニア新駅や甲府駅が、山梨県全体にバランスよくつながる交通網の整備が必要である。 ○ 定住人口確保策として、インフラを整備して首都圏に通勤できるようにしてベッドタウン化するという方法もあるのではないか。 ● 富士山が世界文化遺産に登録されても、リニア新駅から富士山まで公共交通機関で行けるようであればいけないと思う。 ● リニア関連の整備事業は、何回もあることではないので、是非、推進していくべきである。 ● 子どもや来県者が、リニアが走行しているところを見られるようなものがあるとよいと思う。 ● 中央線上市の特急の始発で、使える時間帯に到着するものが1本だけでもあると、かなりよいと思う。 □ 夜10時を過ぎるとバスがなくなってしまうが、12時頃までの間に30分に1本ずつくらいあると便利であり、中心街に人が集まる機会が増えるのではないか。沿線の住民に宣伝して、中心街に来てもらってはどうか。 	
<p>3 交流を支える都市基盤整備の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 甲府駅南口のグランドデザイン策定には、有名なデザイナーなどのグローバルな感性の人が関わる必要がある。 ● 甲府駅南口については、歩行者が回遊できるようなものにする必要がある。 ● 甲府駅南口については、住民や商売をしている人たちが活性化につなげられるものでないと使われないものになってしまうので、関係団体、学生の意見を聞いていく必要がある。 ● 甲府駅南口に、東京スカイツリーのように富士山が見えるような展望台があるとよいと思う。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>○ 他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誘致した企業が出て行かないように、市町村と一体となって対応する必要がある。 ○ 現在、産学官で非常によい関係で事業を進めているが、企業の人材育成についての予算措置も必要である。 ○ 道路やリニアが整備されれば企業誘致が進むという考え方には疑問を感じる。なぜ企業が県外に撤退してしまったのかについて考えていく必要がある。 ○ どのくらいの規模の企業を誘致し、どのくらいの雇用を確保するかについて考えていく視点が必要がある。 ○ 「暮らしやすさ日本一」になるための定義を具体的に設定し、全国で何番目くらいなのかを県民に示していく必要がある。 ○ 県民は、「暮らしやすさ日本一」になるための指標に対して、どこまで進んでいるのかを知りたいのだと思う。 ○ 行動計画の数値目標の一つ一つが達成されれば「暮らしやすさ日本一」に繋がるとは思うが、10年後、20年後の姿が実感しづらいと感じる。達成状況が目で見えて分かるような形にする必要がある。 ○ 内閣府から住民の幸福度に関する資料が発表されるので、これを参考にして、県民が暮らしやすさを実感できるような指標について検討する必要がある。 ● 県は、農業生産法人に比べて、個人で農業をやりたいという人に対して冷たいのではないかと感じる。これでは、家族で県外から来た人たちが出て行ってしまうので、引き止めるような施策が必要である。 ● 二地域居住をしたいという人で、中古住宅は買えるが農地法の関係で農地は買えないという人がいるが、フォローしていく必要がある。 ● 山梨は空き家率が全国で一番高い。先を見据えていかないと置いて行かれると感じる。 	<p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p>

政 策	発 言 要 旨	備 考
	● 富士山には7, 8月には観光客が多数来るが、河口湖駅が活用されていない。これをうまく活用すると、もっと潤ってくるのではないかと考える。	産業部会へ
	● 観光業者の社員寮が不足しているが、健康科学大学の学生向けのアパートは空いている。ソフトの施策でこれらの問題を解消してほしい。	産業部会へ
	● 創業についての施策が充実していないと感じる。山梨に行けば創業にチャレンジできると思われるような施策が必要である。	産業部会へ
	● 富士山の世界遺産登録、国民文化祭については、実施自体が目的ではなく、これらによって山梨に来てもらうようにすることが大事である。	産業部会へ
	● 企業が県外へ出て行く原因を追及して、その対策を立てて実施するPDCAサイクルの強化が必要である。	産業部会へ
	● リニアの開業、富士山の世界遺産登録は、それ自体が目的ではなく、本来の目的は「暮らしやす日本一」の実現であり、これらはそのための手段である。どんな山梨をつくらうとしているのかを県民に示す必要がある。	全部会へ
	● 山梨は、地震、竜巻などの自然災害が少ないと思うが、そこをアピールしていく必要がある。	全部会へ
	● 人口減少社会であるが、河口湖の辺りはそれほどでもないので実感がない。人口が減少していないところの例を参考にしていく必要がある。	全部会へ
	□ 農地や建物が空いていても貸してくれないことが多いので、県が遊休農地についてのデータベースを持ち、仲人の役割を果たしていく必要がある。	産業部会へ
	□ 農地の賃貸借について、農地銀行はあるが、県民が使いやすいようなものにしていく必要がある。	産業部会へ
	□ 地域の連携によって、山梨で農業をやりたい若い人をサポートしていく必要がある。	産業部会へ

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<p>□ 県民意識調査の満足度は、相対的なものであり、社会全般のトレンドの影響を受けるので、前回の調査結果とどう違うのかを分析する必要がある。</p>	全部会へ
	<p>□ 県民意識調査結果を、地域づくり、街づくり等の評価のしずらい政策分野の評価指標として利用していく必要がある。</p>	全部会へ
	<p>□ 県民意識調査の定住意識についてよい結果が出ているが、出て行きたい人は出て行ってしまっているので、この結果に県が満足してしまっは困ると思う。</p>	全部会へ
	<p>□ 県は大きなビジョンを持ち、それに沿って満足度を考慮して、施策を実施していく必要がある。</p>	全部会へ
	<p>□ 県民意識調査結果で問題となっているところは、民間にとってはビジネスチャンスに繋がるものであるなので、調査結果を民間にも公表していく必要がある。</p>	全部会へ
	<p>□ 住民にとっては、行政と民間のどちらがやっていることなのかは関係ないことなので、地域をよくするように協力しあつてほしい。</p>	全部会へ
	<p>□ 県民意識調査結果のうち「豊かさ」や「山梨県の将来像」について分析し、大所高所からみる必要があるとあり、優先順位をつけて施策を実施する必要がある。</p>	全部会へ
	<p>□ 東京在住の山梨県人120万人が、なぜ山梨を出て行ったのかを調査して、それを反省材料とする必要がある。</p>	全部会へ
	<p>□ 県民意識調査の回答者は50歳代から60歳代が多いが、大事なことは多数決だけで決めるべきではない。将来、若い人が山梨に住み続けてよかったと思えるようにする必要がある。</p>	全部会へ
		全部会へ

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<p><input type="checkbox"/> 県民意識調査については、問題意識、満足度が30年前と劇的に変わっているものもあるので、報告書では、社会の変化についても取り上げてほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> 総合計画審議会の各部会の「きわ」の部分について、抜け落ちてしまっているものがあるので、知事政策局が配慮して調整する必要がある。</p>	<p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p>

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成23年 5月 第1回部会審議)

(平成23年 7月 第2回部会審議)

(平成23年10月 第3回部会審議)

(平成24年 5月 第4回部会審議)

(平成24年10月 第5回部会審議)

(安心安全部会)

山梨県総合計画審議会

基本目標 5 「生涯あんしん地域」 チャレンジ

○第3回部会 ●第4回部会 □第5回部会 (※行動計画策定以前の第1回及び第2回部会は省略)

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 安心して暮らせる地域福祉の推進</p>	<p>○ 障害者幸住条例の見直しに関して、一昨年から、国で、虐待防止法、総合福祉法などの制度改革をしており、平成25年には差別禁止法が成立する。条例は、これらの受け皿になるので、国の検討状況を見ながら前倒しでやってほしい。</p> <p>○ 地域包括ケアシステムを機能させるため、特別養護老人ホーム等と養護老人ホームを相互に乗入れできる仕組みを構築してほしい。</p> <p>○ 障害者福祉施設の不足に備え、改修だけでなく、新しく開設してほしい。</p> <p>○ 地域包括ケアシステムについては、事業主体である市町村と県が上手に連携してほしい。</p> <p>● パーキングパーミット事業は、障害のある人にとって、社会参加と自立生活の機会を確保する重要な事業。この事業を機能させるためには、施設管理者の協力が不可欠なので、積極的な、啓蒙周知が必要。</p> <p>● また、不適正駐車がなくなる形での制度の運用をお願いしたい。</p> <p>□ 認知症患者に対し早期に治療すれば、入院患者の6割が家庭に復帰できる。それには、医療センターと初期治療支援チームを活用すればよいと思う。</p> <p>□ 幸住条例は全面改正すべき。その際には、専門職を配置し、後々、遺漏のない取り組みをお願いしたい。また、検討委員会は、障害者を中心に配慮すること。</p> <p>□ 「パーキングパーミット制度」は、企業等の積極的な協力がカギとなる。特に、重度の障害者にとって、全ての不特定多数が利用する施設に、この制度が及ぶことは、生活自立に不可欠。一層の啓発周知をお願いしたい。</p>	
<p>2 県民の豊かな生活を守る保健医療の充実</p>	<p>○ がん診療連携拠点病院において患者が相談しやすい配慮が必要。</p> <p>○ 多くの県民が健康づくりを実践し、県民運動として展開することは、素晴らしいこと。栄養改善、検診受診、自殺防止などいろいろな分野で進めてもらいたい。</p> <p>○ 医療に関して患者情報共有システムの充実をお願いしたい。</p> <p>○ 大腸がんだけでなく、他のがんの受診率を高めて頂きたい。その際、高齢者は細かい字が読めないので、関係文書は、字を大きくしたり、絵を入れるようにしてほしい。</p> <p>○ 周産期医療体制の充実・強化に関して、助産師外来をもう少し増やしてほしい。</p> <p>● がんに関する医療連携について、県の歯科医師会、地域、それに県立中央病院が、連携を進めており、地域の診療所としては、安心感もてる、いい取り組みだと思う。</p> <p>● 民間病院は救急を受ける体制は整っているが、手術するのにベッドが足りないという話がある。ベッド数は国の制約があるが、弾力的に運用できる仕組みを検討してもらいたい。</p> <p>● 今後、高齢化が進行し、看護・介護を必要とする人々は増加する一方で、少子化により看護を志す人は減少する。本県が安心して安全な医療や福祉を提供するのに必要な人材の確保に力を入れて頂きたい。</p>	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<p>□ がん検診の受診率が伸び悩んでいるのは、本当にどうしたらよいか分からなかったり、検診施設が分からなかったりする要因がある。このための啓発なり、誘導なり、自分が必要だと思う所にたどり着けるような対策を考えて欲しい。</p> <p>□ がん検診の受診率の向上に関して、柔軟に、変更とか計画を見直している。目標達成は、こういった柔軟性が、今後4年間にどこまで生かせるかにかかっている。</p> <p>□ がん検診の受診率の向上に向け、各部局で協力して進めていってほしい。</p> <p>□ がん検診の受診率の向上に向け、正確な実態を把握するため、医師会も協力して、国民健康保険と医師会のデータを合わせ細かいデータを出そうと、取り組んでいる。</p> <p>□ 子宮頸がんは、20才、21才までが多いので、そういう人に対して、積極的にワクチン接種を進めてほしい。</p> <p>□ ドクターヘリ、防災ヘリ、自衛隊ヘリとの連携を進めてほしい。</p>	
<p>3 あたたかく多様な子育て支援</p>	<p>○ こころの発達総合支援センターの受診は3ヶ月待ちという状況なので、早期に受診できるよう配慮してほしい。</p> <p>○ 「放課後子どもプラン」は親の就労支援にも繋がるので、推進してほしい。</p> <p>● 地域主権一括法の権限委譲に関する条例改正について、地域の実態なども踏まえて、「子育てするなら山梨県」と言われるような、そういう基準作りをお願いしたい。</p> <p>● 今の子育て環境は、子どもが育てられた環境とは、違って、多様化している。子育ての悩みや不安を抱えるお母さんが多いので、一層の支援をお願いしたい。</p> <p>□ 放課後児童クラブは小学校ではなく保育所単位で設定するなど、より身近な地域の中で子どもを育てていく環境整備が求められている。</p>	
<p>4 大規模地震・富士山火山防災体制の強化</p>	<p>○ 夜間の防災対策は自治体単位で行うだろうが、職場や学校など昼間にいる場所での防災対策も必要ではないか。</p> <p>○ 一時帰宅困難者が自助できるような環境整備を進めてほしい。</p> <p>● 地域の力が非常に弱くなっている。災害が起きた時、どこにどういう人がいるか、地域の実態を知って、初めて対応できる。地域の問題は地域で解決していくことが大切。地域の力を育てていく方向に、県は、施策を進めてほしい。</p> <p>● 大きな災害がある時に、県立中央病院のドクターヘリ1機では対応できない。このため、自衛隊のヘリコプターの連携を進めてほしい。</p>	
<p>5 災害に強い県土づくりの推進</p>		

○第3回部会 ●第4回部会 □第5回部会 (※行動計画策定以前の第1回及び第2回部会は省略)

政 策	発 言 要 旨	備 考
6 誰もが快適で安全に暮らせる社会づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者が関わる事故が多い。特に、自宅近くでの発生が多いので、高齢者の教育に力を入れてもらいたい。 ○ 青少年犯罪は減少しているが、更に減らすため、地域で若者に声かけをしてほしい。 □ 施設を改善する時は、障害者・高齢者に配慮した施設にして欲しい。 	

○第3回部会 ●第4回部会 □第5回部会 (※行動計画策定以前の第1回及び第2回部会は省略)

政 策	発 言 要 旨	備 考
○ 他の政策分野に関する、意見、提言	<ul style="list-style-type: none"> ● 定住人口確保について、私達の子どもが大学に行く時に、県内には、大学の数が少ないので、県外へ出てしまう。今度、戻って来る時には県内の就職情報がないので、戻って来ない。対策の検討に当たっては、大きな視野に立ち、関係部局が協力して、大学や企業との連携を進めてもらいたい。 	産業部会へ

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成23年 5月 第1回部会審議)

(平成23年 7月 第2回部会審議)

(平成23年10月 第3回部会審議)

(平成24年 5月 第4回部会審議)

(平成24年10月 第5回部会審議)

(教育文化部会)

山梨県総合計画審議会

基本目標 6 「未来を拓く人づくり」 チャレンジ

○第3回部会 ●第4回部会 □第5回部会 (※行動計画策定以前の第1回及び第2回部会は省略)

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 豊かな個性を伸ばす教育環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福島県で訪問した学校には、学習障害児（LD）、情緒的に問題を持つ児童、知的障害を持つ子ども達の各クラスがあり、非常に施設が充実していた。今後、山梨県でも子どもの心のケアに関する対策の必要性が増してくると思う。 ○ インターンシップの推進は、これからも続けていかななくてはならない。高校在学中に1回参加した生徒の割合を、平成26年度までに何%にするという目標がよいのではないか。 ○ 全国的には少人数学級編成が進んでいない学校が多いが、山梨県の場合は、子どもに接する時間を増やすために少人数教育を拡充することになっていてよいと思う。 ○ 東日本大震災後にいじめがあったと聞かすが、今後、心の教育がさらに進められていくことが必要だ。 ○ 特別支援教育の推進について、近年、生徒数が増加しており、今後、支援学校の施設の改善が必要である。また、特に高等部の生徒数が増加しているが、高校の改革と連携して何かできないか。 ○ 社会にどのような職業があるのかといった学生の不安を解消するためにも、キャリア教育の推進は、非常に大事である。 ○ 高いレベルでの教育について、理数科、英語科、特進クラスなどのある高校の中で、意欲のある生徒を引き上げることはできないか。 ● 世界に通じる人づくりということで、知・徳・体のバランスのもとに生きる力、本当の学力がつくという捉え方があるが、知だけに偏重しないように、徳と体についてももしっかり取り組むべきである。 ● かえで支援学校の分教室の開設について、比較的軽い障害の子ども達を対象にしているようで、そういう子ども達の社会参加、自立へ向けての良い方向だと思うが、卒業後のことをやはり考えていかなければいけない。 ● 特別支援学校の高等部教育の充実については、教育と自立支援、社会参加を有機的に連携して取り組み、教育の成果が実際に社会参加、自立に結び付いていく施策と連動していかなければならないと思う。 ● 県独自の学力把握調査については、地域ごとあるいは社会階層ごとの分析もできて、学力だけでなく、社会環境など、ある種の科学的な調査の枠組みの中で、政策的な課題を抽出するような取り組みが必要である。 ● 若者が社会人になった時点で、人間関係や企業のしくみの中で、とまどいを感じずるような現状が全国的な問題として多くあるということをよく見聞きするが、その要因を取り除くために、学校教育と社会教育の関連性が重要である。教育機能は、社会教育の面にもう少し力を入れた方がよいと思う。 ● ダンス・武道の必修化について、県のスポーツ健康課で各学校にCDを配っているが、良いことを行っているのので、各学校はそれを活かして欲しい。 ● 学校においてキャリア教育などを行っているが、自分自身のアイデンティティーが自分に対する誇りや山梨に対する誇りなどに結び付いて、精神的な強さに繋がって行けばよいと思っている。そのためには、家庭教育、学校教育、社会教育が上手く連携して、山梨らしさというものを目に見える形にしていけたらよいと思う。 ● キャリア教育など実体験として積み重ねていくような教育を行うことによって、バランスの取れた人格の形成が可能になっていくと思う。教育の問題は、国を挙げて取り組むべき課題の中で非常に重要なテーマの一つである。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> □ 県立学校への冷房設備の導入について、全校に設置というのはバラマキという感じがしてしまう。地域に合った、地域に喜ばれることをしてもらいたい。 □ 教員の資質・指導力の向上には研修が必要であるが、小学校で学級担任の教員などは、研修が受けにくい状況にあるので、長期休暇中の研修の充実といったことが考えられる。 □ 教員が何を求められているかに応える意味でも、是非このまま引き続き少人数学級に取り組んでももらいたい。 □ 山梨県が行っている教員評価制度は、個々の教師が目標を立てて、それに対してどのように取り組み、どのような成果があったかを評価するもので、労務管理的な評価ではなく、非常に意味があると思う。 □ 通学が東京や近県へ流れていくような方向では困る。山梨県の中で、充分教育や文化のサービスが提供できると自信を持って言えるようなものを、作っていかなければならないと思う。 □ 学校教育の中で、地域との連携、家庭との連携、PTA各種団体との交流・協同ということが課題である。そのような観点から、優先する課題に取り組むことにより、将来的に教育機能が進んでいくことになると思う。 □ 教育について、学校の先生方に丸投げしている県民や保護者を行政側がどう巻き込んで協働していくかということが、一番の課題であると思う。 □ 学校や担任の先生方も非常に忙しい状況である。県は、教員の資質向上のためにいくつも研修講座を開いているが、その研修を受けてきた先生が学校で他の先生方に還元できる時間がなければ、資質の向上は難しいと思う。 □ 伝統文化を学校教育の中に取り入れてもらいたい。 	
2 生涯を通じて学ぶ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後子どもプランの中で、配慮が必要な子どもがいる。学校教育の中では対応が可能であるが、支援を検討してもらいたい。 ● 子どもに読書習慣を付けてもらうことは大切だと思うが、子どもを図書館に連れて行くには、車の利用が多いと思う。新しくできる県立図書館の駐車場の役割は重要である。 ● 国民文化祭については、みんなで参加できるという点をもっとPRすると良い。 ● 現在インターネットが発達しているが、本に頼ることも多いので、県立図書館に外国語の書籍を充実することが大切だと思う。 □ 甲府市など何市かは教育の日を実現しているが、地域ぐるみで皆さんと一緒に教育を語るような機会を持つべきだと思う。 □ 国民文化祭をよくアピールして、地域が一体となって頑張っていってもらいたい。 □ コミュニティスクールは、うまく地域の方を入れて、学校の運営が見える形でみんなが協力し、防災拠点、コミュニティの拠点として動いているので、そういうところも見してほしい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>3 芸術・文化・スポーツの振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財の指定、保存、活用については、まちづくりの都市基盤整備のところで連携できると思う。 ○ スポーツを通して、自分の健康は自分で守ることの大切さを知り、更にスポーツ文化の確立を図っていくことが大事である。 ○ ジュニアアスリートの強化について、民間でも高い競技レベルの指導を行っている指導者もいるので、そういった方の専門的な知識を活用して、県立学校でも高いレベルの指導を行っていただきたい。 ● 国民文化祭で行う様々な事業は、一年だけ一生懸命やるのではなく、国民文化祭終了後の取り組みが大事である。 ● スポーツを通じて、先輩後輩など人間関係が学べるので、勉強だけでなく、文武両道が望ましいと思う。 □ 一流のアスリートを総合型のスポーツ施設に送って、小さい子どもから年配の方まで楽しみながら超一流の指導を受けられるような機会を設けてほしい。 □ ナショナルオリンピックセンターなどにも積極的にトップアスリートやジュニアアスリートを送り込んで勉強させてもらいたい。 □ スポーツ少年団については、シニアへ進む場合と学校の部活で続ける場合とに二極化しており、野球などでは、シニアに進んでしまうために、部活が成り立たないという現状も見受けられるようである。指針を示してもらいたい。 	
<p>○ 他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 姉妹友好交流の促進については、体験活動、グローバル化社会への対応、スポーツ交流に活用できればよいと思う。 ○ 幼いころから、男女共同参画の視点でジェンダーの考え方が取り入れられたらよいと思う。 ● 部会ごとに切り取っていくと、様々な施策がそこに重点化されていく。教育委員会、福祉部門、産業部門の連携が、施策としてあると思うが、事業間とか施策間の連携をきちんとやらなければ成果は上がらないと思う。 ● 定住人口確保については、企業、雇用などいろいろなものが一貫したものでなければならないと思う。また、県外に出た人が県外の人を連れてきて定住するなど、人間関係が結ばれると生活も経済も雇用も、この県の中に定着していくと思う。 ● 県では、女性の知恵委員会を設けているが、県政と絡んで、女性の視点で定住できるような知恵を、暮らしやすさ日本一になれるような政策を展開して欲しい。 ● 安全安心通学路の問題は、教育委員会、市町村、警察などが連携して取り組んでいくことが大事である。 ● 女性が働きながら子どもを育てるのは大変であるが、今後、人口が減っていく中で、女性の雇用を促進していかなければならない。働きたくても働けないという現状は、改善していかなければならないと思う。 	<p>産業部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>産業部会へ</p>

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> ● 就職の面で、山梨県には本当に仕事が少ないと感じている。雇用の活性化が求められていると思う。 □ 地域防災について、地域の住民、学校、自治体、自治会すべてが協同してまちを考えていくような方向を、これからの行動計画の中で施策化していくことが大事である。また、女性の視点を十分に活用してほしい。 □ 地域の実態とニーズの把握ということを心掛け、27市町村の格差などを踏まえて行動計画に具体性を持たせてほしい。 □ 他の部会と重なる部分をしっかりやってもらいたい。計画は、何年か先を見通しているものであるが、今、目の前にある問題は何かということも、しっかり押さえてほしい。 □ 子育てをしながら仕事をするのは本当に大変なので、県として子育て支援に力を入れもらい、女性を活発に活用していただける行政であってほしい。 	<p>産業部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>全部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p>